

教務だより

2018年8月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

WIN-WINの夏

茗溪塾塾長 宇野 雅春

史上最高の猛暑が続いています。多分今まで経験したことのない事態というものがあろうなので、生徒も先生も健康管理には十分に気を付けてほしい気がします。

さて、受験で成功するためのキーワードはここまで「自立」でしたが、「自立」の前提とされることをさらに一歩進める必要があります。人とのコミュニケーションなしに「成功」はないという事…。先生でも、生徒とのコミュニケーションがなかったり、周りの先生や父母との協力関係が築けなかったりすると、本当の意味での良い指導は難しくなります。

教育に携わるのに、「自信」とか「確信」とかは本当にいいことなのでしょうか？一人ひとり違う人格の生徒たちに、全く同じ指導をすることが正しいとは思えないのです。常に悩みはつきまといますが、自分の方法論で出来上がってしまうより、受験の一回一回を共に悩み戦い抜く方がいいと最近思うようになりました。

子供同士で問題が起こったりすると、解決が即できないことを「指導力がない」と思う方が多いようですが、実は大人の「一喝！」で解決しそうな「子供の問題」がそう簡単に解決しないということ…。これは経験すればするほどわかるものです。すぐにうまくいかなくても悩みながら最善を尽くすこと、子供の成長にある意味「かける」という気持ちも大切だと思います。一方の子供がどう成長するのが重要だと思うのです。

長い夏期講習こそは子供が良いにつけ、悪いにつけ、変わる時期です。一気に受験を放棄してしまう楽な方向に逃げないでほしいと切に思います。どうしても「勉強」＝辛いこと、もしくはいやだけれどやらなくてはいけない必要悪、「勉強」＝自由の制約ととらえる傾向があり、遊びたいだけの子供がそこに依存して、結局は無為に終わります。「勉強」と「遊び」は両立できることで、対立するものではないということをおわかってほしいと思います。

受験生も11月ごろになると、皆必死になるのに、夏はだれてしまう生徒もいます。

夏こそは、学習に専念できる時間が取れますので、学ぶこと、努力することの「喜び」を実感するチャンスととらえるべきと思っています。

先生方全員がWIN-WINのTシャツを着ていますが、それは受験にとって一番大切なコミュニケーションが、WIN-WINと考えるからです。WIN-WINは「ともに勝つ」という考え方です。受験におけるWIN-WINは、ともに「合格」を喜びあえる人間関係ということです。そう簡単に得られないものかもしれません。でも合格体験記の多くは、ともに学んだ友がいたから頑張れた！というものがほとんどです。それぞれ目標が違っていても、一緒に頑張り、ときには競い、ときには励ましあって、目標を達成していくことは、おそらく社会生活の基本だと思います。親も子ども先生も実は合格を喜びあえる唯一無二の関係であることに早く気がついてほしい…。夏も後半に入ります。合宿、短期集中ゼミでWIN-WINを実感してほしいと思います。WIN-WINの夏は受験期に向かう中で体験する特別なものです。今の自分を一歩進めるためのヒントがたくさんあるはずです。